

2021年(令和3年)3月31日(水)

三島・沼津市境 環境調査



河畔林にエノキ、ムクノキの巨木がそびえ、空にミサゴやオオタカなど猛禽類が舞う。三島・沼津市境の松毛川(沼津側呼称は灰塚川)に豊かな自然が残されていることが、県が整備事業を前に2020年度に実施した自然環境調査で明らかになった。(石川宏)

松毛川は狩野川日本流の三日月状の止水域(約1キロ)。自然の堤防を形成する河畔林が狩野川の原風景を残す。一方、本流から切り離された川底は泥が堆積する。調査は、鳥類▽魚類▽魚類以外の水生生物▽植生・樹林について、専門家に依頼して春夏秋冬の4回、実施した。鳥類は43種が確認さ

①トウヨシノボリ②ミサゴ
③エノキの巨木=いずれも
グラウンドワーク三島提供



巨木、猛禽類、魚の宝庫

松毛川に豊かな自然

多様な鳥がいるという。食物連鎖の頂点に立つタカ類もいた。魚類は18種が確認された。かつて生息したメダカは確認できなかつたが、海と川を行き来するハゼ科のトウヨシノボリが確認されたことが貴重という。植物は43科368種あり、20の群落が確認された。エノキ、ムクノキ、ケヤキの巨木が現存する点が重要という。



松毛川と巨木の残る河畔林=三島市御園で、石川宏撮影

調査の結果について、河畔林の保全活動を続けるNPO法人グラウンドワーク三島(GW三島)の渡辺豊博専務理事は「生物的多様性のある生き物の楽園であるとはっきりした。行政、市民、専門家が一体となり、世界に誇れるより素晴らしい水辺空間が形成されれば」と期待する。

GW三島は森の再生のため、目標金額500万円のクラウドファンディングを5月28日までレディーフォーのウェブサイトで実施中。問い合わせはGW三島(0555・9883・0136)。